

# デザイン性の高い特殊階段で存在感 オンリーワンの技術を社内で継承

公共施設やオフィスビルなどの階段製造を手がけるステアックス株式会社は、複雑な形状で設計・製造が難しい「特殊階段」を得意とし、取引先のゼネコンからも頼られる存在だ。自社の強みを活かすため、技術の蓄積や継承、そして働きやすい職場づくりに取り組んでいる。

東京・渋谷の複合型商業施設「ミヤシタパーク」の大階段や、赤坂迎賓館前公園施設でひときわ目を引く支柱のないらせん階段。いずれも、階段メーカーのステアックス株式会社手がけたものだ。こうした複雑でデザイン性の高い階段は、業界では特殊階段と呼ばれている。

「社内の飲み会や社員旅行のときも、変わった階段を見つけると皆でまじまじと観察してしまいます。自分が担当した商業施設の階段が完成すると、家族と一緒に見に行く社員もいるようです」

代表取締役社長の折原信吾氏は、社員たちの“階段愛”をそう明かす。折原社長自身は、もともとはゼネコンで構造設計の仕事をしてきたが、階段製造に興味をもち、2007年に入社。17年に社長に就任した。

同社は1991年の創業以来、鋼製階段の製造一筋で歩んできた。99年には大阪の鋼管メーカー、サンキン株式会社のグループ会社となり、材料の仕入れなどで連携している。

同社の特殊階段は主に公共施設や大学、オフィスビル、商業施設といった大型施設に設置されるもので、

ゼネコンからの直接受注が中心だ。商社などを介さず直接取引しているメーカーは珍しく、全国でも数社程度だという。なおかつ、階段の設計から開発・製作・施工までの工程を一貫して担うことを強みとしてきた。鉄鋼業界の中でも、階段に用いる鉄板は薄く、加工や溶接には高い技術力が求められる。それが特殊階段になると、正確に組み立てるための難易度はさらに上がる。

「特殊階段をうまくつくるには、ゼネコンなどからの設計図をもとに、当社の設計部がいかにも実現可能な図面に落とし込んでいくかが非常に重要なポイントです。メーカーとしての腕の見せどころでもあります。業界では後発だったので、他社と差別化するためにも手間はかかるがデザイン性の高い階段に力を入れるうちに、“特殊階段といえばステアックス”と認知されるようになりました。現在も、難易度が高い階段は基本的に茨城県の自社工場で製造しています」

特殊階段だけでなく一般的な階段も受注しており、実は同社の売上を中心を占めるのは後者だという。しかし、業界で存在感を発揮できるのはやはり特殊階段



2023年に東京・渋谷区桜丘地区の再開発で手がけた、らせん状の特殊階段



技術的に難易度の高い特殊階段は一つひとつがオーダーメイド。茨城県の自社工場で作る



安全性のためにも、社内や取引先との意思疎通が非常に重要となる



営業部でも、若手社員と先輩が隣同士の席になって細やかな教育を行っている



10年ほど前から毎年、自社の案件を社内で表彰し本社と工場にパネルを掲示

だとして、自社工場を拠点に技術やノウハウの蓄積に努めてきた。

「特殊階段のデザインはどれもバラエティに富んでいる分、マニュアル化が難しく、経験がものをいう世界でもあります。若手社員へ技術を継承するために、ベテラン社員と一緒に、製造現場で経験を積みながら技術を身につけてもらうようにしています」

また、本社の設計部は、異なる業界出身で未経験という人材にも門戸を開いている。そのような社員も先輩について学ぶことで、1年後には自分で設計図面を作成できるようになるという。

「昨今は建設ラッシュが続き、特殊階段のニーズも多様化しています。ゼネコンや設計事務所が求める見た目のインパクトを意識しつつ、わずかな懸念点もクリアしておく必要があります。プロジェクトの開始時には私も含めて各部署の担当者全員で会議を開いて製造上の問題点を確認し、先方とも調整を重ねるようにしています」

## 在宅勤務やクラウド化を積極的に推進 社員が働く場所を選べる企業を目指す

同社は働き方改革にも積極的に取り組んできた。在宅勤務の導入は、折原社長がまだ設計部にいた頃、部内の女性社員が出産や育児を経ても働き続けられるようにしたいと考えたのがきっかけだ。

「新型コロナウイルスの感染拡大を機に、本社の全員を在宅勤務に切り替えたところ、『家族と過ごす時間が増えた』『規則正しい時間に夕食が食べられ、健康になった』という声がかかるようになりました。子育ても男女一緒に取り組む時代ですし、親の介護をする社員もいる。本人の意思で在宅か出社かを選べる

### Corporate Profile

代表取締役社長	折原信吾
本社	東京都豊島区東池袋4-41-24
創業	1991年
売上高	21億円(2024年3月期)
従業員数	59名(2024年4月)
https://sankin-g.com/stairx/index.html	

ようにしました。クラウド化やペーパーレス化も推進しており、社員がどこにいても働ける会社を目指しています」

こういった施策が評価され、「TOKYOテレワークアワード推進賞」を受賞したほか、性別に関係なく誰でも活躍できる職場環境を実現したとして、厚生労働省の「えるぼし認定」も受けている。

現在は都心部の大規模再開発や物流倉庫の増加などで建築業界全体が潤ってはいるが、昔から景気に左右されやすい業界だ。自社工場を抱えているため、なるべく繁忙期と閑散期の差をなくして安定的に稼働するための受注活動など、今後も取り組むべき課題は多いという。

「鉄の価格高騰も大きな影響があります。工期が長いと、材料費が当初予定していた金額から大きく変わってしまったり、適正な価格が読みづらい時代です。また、人口減少に伴い市場は縮小していく可能性が高く、新規案件だけでなく既存の階段の改修も視野に入れて柔軟に経営していく必要があります。多様化するニーズに応じて特殊階段の技術を磨きながらも、次の一手を考え続けていきたいです」



「特殊階段は一つとして同じものがない。そこがこの仕事の難しさであり面白さでもあります」と話す代表取締役社長の折原信吾氏